

おーいペンギンさん

脚色／松本 則子 演出／西村和子 美術／永島梨枝子 音楽／一ノ瀬季生 制作／古賀恵子

お風呂屋さんにひとりで行った太郎くん。
お風呂から上がってみると、
「あっ！ぼくの服がない!?!」
残っていたのは なんとペンギンの服でした。
太郎くんはすぐに追いかけた。

『おーい ペンギンさん』
舞台はお風呂屋さんから南極へ
太郎くんはペンギンのペンタロウを追っていく途中、
ワニやあほうどり 最後には くじらに助けられ、
やっとのことで南極についてみると…

大阪弁のナンセンスな人形劇



ほんまにあったらええのになあ

一人でお風呂屋に行ってみようかなと思って、思い切ってお父さんに言ったら許してくれた。お母さんも「行ってもいい」と言ってくれた。「服、まちがえんと帰っといでや」と言われ、「間違えるわけないやん」と胸を張って出かけてきた。そやのに、風呂から上がったら『僕の服がない。』これでは帰られへん。『ペンギンの子がまちがって着て帰った』と番台のおばちゃんが言うた。なにがなんでも南極まで行って、服を取り返さなあかん。走りだす太郎君。私は思わずエールをおくります。そやで「ここで、シオシオと帰ったら、二度と親から信用してもらわれへんで」と。

泣きもせんとまっしぐらに走る太郎君。ほらみてみ、世間も捨てたもんやないやろ、手伝ってくれる大人はようさん出てくるやんか。そやけど、手伝ってくれる大人って、みんなけったいな人ばかりやな。

けったいやけど、あったらええ、ええ人やな。
何かに向かってひたすら走る。人に助けられながら、自分の目的を達成する。

体を動かして何かをすることが苦手な社会。人と人の心の伝達が会話という形を取りにくい社会。そんな社会で暮らすしかない子ども達に、「こんなことあったら面白いとおもわへんか」「こんなことあったらやれへんか」と子ども達に呼びかけながら創りました。

脚色 松本則子

